

令和4年度第7回霞ヶ浦自然観察会実施結果

日 時：令和4年10月16日（日） 9時20分～12時50分

テーマ：霞ヶ浦でオオバナミズキンバイを観察しよう

場 所：霞ヶ浦湖岸2か所：田村川水門（土浦市手野町）、自然再生区H区（土浦市沖宿町）

案 内：小幡和男（茨城県霞ヶ浦環境科学センター）

内 容：

霞ヶ浦湖岸で繁殖し問題になっている特定外来生物指定種オオバナミズキンバイ、ミズヒマワリ、オオフサモ、ナガエツルノゲイトウの生態を観察するとともに、秋の霞ヶ浦湖岸の植物を観察する。

参加者：9名

担当職員：5名

パートナー：5名

結 果：

センターで開会・オリエンテーションを行ったあと、さっそくバスで最初の観察場所である田村川水門に移動しました。このポイントは5年前の2017年に、オオバナミズキンバイの生育が確認され、その後、県や国、関係機関による駆除活動が行われてきましたが、根絶には至っていません。ここで、オオバナミズキンバイをはじめ、特定外来生物指定種のミズヒマワリ、オオフサモ、ナガエツルノゲイトウの生態を観察し、駆除活動について説明を聞きました。さらに、この4種のほか、最近侵入定着が確認されたアマゾンチカガミを観察しました。

オオバナミズキンバイなど4種の特定外来生物指定種は、田村川水門ばかりでなく、自然再生区H区でも生育が確認されています。それを観察するため、バスと徒歩でH区に移動しました。その途中、ハス田で外来アゾラ類アイオオアカウキクサが繁殖しているようすを見ました。また、絶滅危惧種のミズアオイを観察することができました。

自然再生区H区では、特定外来生物指定種の生育しているようすを観察しましたが、そればかりでなく、秋の霞ヶ浦湖岸の湿地の植物をたくさん観察することができました。秋はタデ科植物の季節です。サクラタデ、シロバナサクラタデが湿地で大群落をつくっていました。アキノウナギツカミのピンクの花、イシミカワの青い実も観察しました。センダングサの仲間は、アメリカセンダングサ、コセンダングサ、タウコギを服などにくつつくしくみをもつタネの部分と比較しながら観察しました。タコの吸盤のような果実をつけた絶滅危惧種タコノアシが紅葉しているようすが観察できました。ハッカは葉をちょっと触っただけでミントのいい匂いがします。紫色の小さな花をつけていました。

最後に、似たものどうしの植物、オギとススキ、ヨシとセイタカヨシの違いを調べました。オギはヨシとともに湿地一面に生えますが、穂が出たようすはススキとそっくりです。穂をつくっている個々の花の毛やノギ、葉の裏の毛の生え方などで見分けられることを観察しました。また堤防に群生しているセイタカヨシもヨシとそっくりですが、いくつかのポイントを知っていると見分けられることを知りました。

この観察会では、以上の植物のほか、全部で約30種類の植物を観察することができました。天候にも恵まれ、秋晴れのもと、充実した観察会となりました。

第7回霞ヶ浦自然観察会



田村川水門で繁殖しているオオバナミズキンバイなど



オオバナミズキンバイを観察する



ミズヒマワリを観察する



アマゾンチカガミを観察する



自然再生区H区で見られたサクラタデ群落



絶滅危惧種タコノアシを発見



H区でもオオバナミズキンバイの繁殖を確認



ススキとオギの違いを観察する